



# ゆめ通信

発行 日本養豚事業協同組合  
 〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10  
 八重洲早川第2ビル6階  
 TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

## Topigs Norsvin母豚 TN70のご紹介

### TN70のご紹介

先日はIPPS2024にて日の出物産株式会社のブースへ足をお運びいただきまして誠にありがとうございました。会場でも発表させていただきましたように、Topigs20は来年度よりTN70へ順次切り替わって行きますので、今回ゆめ通信の巻頭ページをお借りしてTN70に関する説明をさせていただきます。

#### ① 【TN70とは】

TN70とTopigs20における一番の違いは、大ヨークシャーに交配するランドレースの系統が変更される点にあります。そのため既に日本養豚事業協同組合より導入していただいている大ヨークシャーはそのままお使いいただけます。

各AIセンターより導入していただく精液を、従来のランドレースからLラインのランドレースへ変更するだけでTN70の生産が可能となります。ランドレースの系統が切り替わる事により、Topigs20と比較してTN70は発育効率や産肉性により優れたF1母豚となっております。

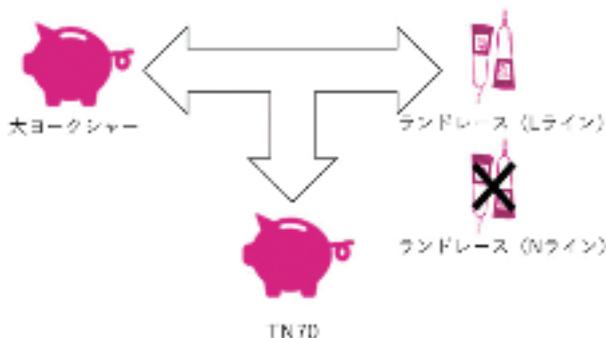


図1 TN70生産のイメージ図

#### ② 【TN70切り替えによるメリット】

TN70への切り替えによるメリットは主に以下の3点があげられます。

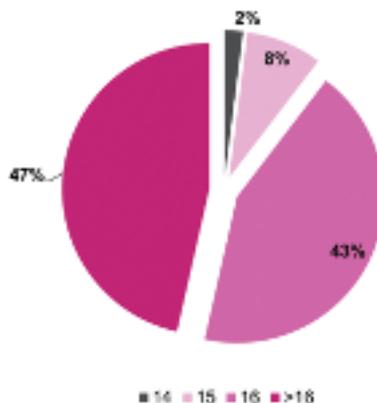
1) 哺育能力の高さ 2) 経済合理性 3) 強健性の高さ

##### 1) 哺育能力の高さ

TN70の魅力の1つとして哺育能力の高さがあげられます。グラフ1はTN70の平均乳頭数になります。2023年時点でTN70母豚の平均乳頭数は16.6個あり、母豚全体の90%に16個以上の乳頭があります。またTN70はTopigs20と比較して哺乳中事故率が低い傾向にあります。自己哺育能力の高さも大きな魅力です。哺乳中事故率の低さから分かります通り、自身で産んだ子豚を最大限哺育し離乳させます。また子噛みも少なく移動も楽な母豚となっております。そのため農場への労働投入量を低下させる事ができます。

##### 2) 経済合理性の高さ

前述しましたように発育効率や産肉性に優れてお



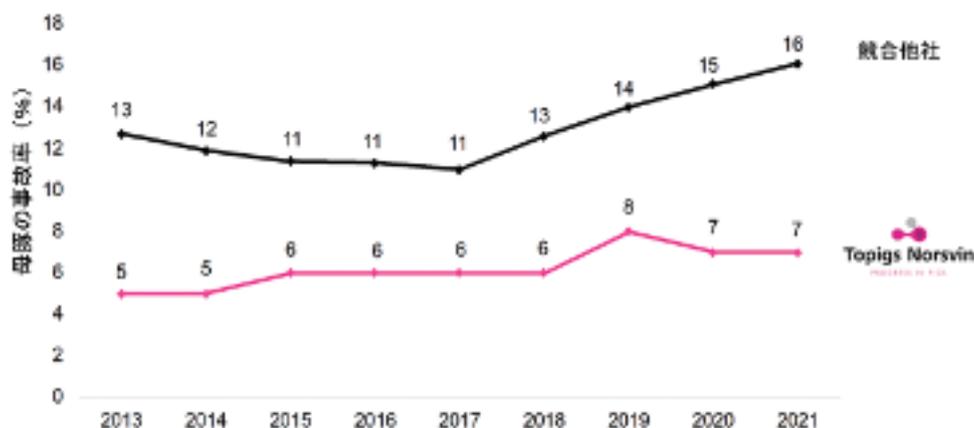
グラフ1 TN70の乳頭数

産歴	TN70	T20
1	91%	88%
2	95%	78%
3	85%	73%
4	82%	80%
5	81%	74%
6歳	83%	81%
計	87%	79%

表1 TN70とTopigs20の離乳率（離乳頭数/生存産子数）

A農場の成績データ	TN20	TN70	数値差
出荷枝肉重量（/母豚/年）（kg）	2064.7	2277.3	212.6
出荷枝肉重量（/m/年）（kg）	162.8	182	19.2
出荷頭数（/母豚/年）	27.84	28.49	0.65
枝肉重量（/頭）（kg）	74.1	79.9	5.8
増体重（g/日）	580.8	663.6	82.8
出荷日齢	196.4	185.3	-11.1
農場FCR	2.86	2.68	-0.18
肉部FCR	2.39	2.23	-0.16
離乳後事故率	8.95%	7.68%	-1.27%
離乳子豚数（/母豚/年）	29.79	31.31	1.52
離乳子豚数（/頭）	12.26	13.25	0.99
分娩回数率（/年）	2.43	2.36	-0.07
分娩率	93.4	93.8	0.4
哺乳中死亡率	13.60%	12.24%	-0.0136
生存産子数（/頭）	14.19	15.1	0.91
総産子数（/頭）	15.42	16.72	1.3
死産数（/頭）	1.23	1.61	0.38

表2 各ベンチマーキングデータの比較



グラフ2 競合他社と比較した母豚事故率

り、Topigs20と比較して弊社自農場における各ベンチマーク項目が向上しています。出荷日齢や出荷枝肉重量（母豚/年）、1日増体重など、TN70の長所が如実に表れた結果となっています。（表1、表2）

### 3) 強健性の高さ

TN70は強健性の高さも魅力の1つです。グラフ2は米国の母豚の事故率をグラフにしたものになります。競合他社と比較して一目でわかる程に低い事故率を維持しています。

### ③ 【TN70の繁殖成績】

表3は弊社自農場における、TN70の産歴別繁殖成績を掲載しております。全体的な傾向としまして、総産子数と生存産子数には大きな差はありません。しかし、離乳頭数に関しては母豚1頭当たり約1頭以上の差を維持しています。

また、グラフ3は弊社自農場がTopigs20からTN70へ切り替わる期間における離乳頭数/母豚の推移を表しています。このグラフからも分かりますように、Topigs20とTN70の離乳頭数には約1頭の差が生じています。このことからTN70の繁殖成績の特徴は「産んだ子豚を落とさない豚」であると言えます。

	総産子数/母豚	生存産子数/母豚	離乳頭数/母豚
産歴	TN70	TN70	TN70
1	16.1	15.1	13.8
2	15.2	14.4	13.6
3	17.1	15.4	13.1
4	17.8	15.7	12.9
5	17.6	15.2	12.3
6	17.1	14.5	12.1
計	16.6	15.1	13.2

表3 自社農場のTN70繁殖成績

### 3) 初回交配ターゲットの変更

Topigs20

- a) 交配体重：140～150kg
- b) 背脂肪：12～14mm
- c) 日齢：230～250日
- d) 発情回数：2回目以降



TN70

- a) 交配体重：150～170kg
- b) 背脂肪：11～13mm
- c) 日齢：210～240日
- d) 発情回数：2～3回目の発情
- e) 出生からの増体重：1日当たり650g以上※過剰な発育はのぞく

#### ④ 【飼養管理におけるポイント】

飼養管理面におけるポイントは主に以下の3点になります。

- 1) 身体が大きく成長が早い  
→従来の背脂肪ではなく体重測定による判断が重要になる
- 2) Topigs20と比較して背脂肪が薄く蓄えが少ない  
→分娩後の損耗が激しいため、授乳中のコンディション管理や離乳後の回復が重要

発育効率の高い母豚になるため、Topigs20の交配ターゲットより若い日齢で初回種付けを行っていたべく事になります。またその発育速度の速さから初回交配に関しては、背脂肪測定ではなく体重測定による判断が重要になります。次頁の表4はTN70候補豚の推奨体重曲線になります。赤色の範囲内が初回交配の推奨体重になります。

2018年10月18日からTN70母豚稼働



グラフ3 TN70切替の変遷と離乳頭数/腹

### ⑤ 【今後の供給体制】

TN70への切り替え開始は以下のスケジュールを予定しております。

- ・ Lラインランドレース精液販売開始  
→25年1月予定
- ・ TN70PS販売開始  
→25年4月予定

各支部セミナーでもTN70に関する説明の機会を設けさせていただきますのでぜひご参加ください。

また、何か疑問・ご意見などありましたら下記までご遠慮なくお問い合わせくださいませ。

日の出物産株式会社 陶山 航  
(すやま わたる)

Tel : 0568-79-2448

Mail : w\_suyama@crestfarm.jp

週	日	成長下限(kg)	Topigs Norsvin 推奨 (kg)	成長上限(kg)
9	63	26	27	28
10	70	31	32	32
11	77	35	36	38
12	84	40	42	43
13	91	46	47	49
14	98	52	53	55
15	105	57	59	61
16	112	64	66	67
17	119	70	72	74
18	126	76	78	81
19	133	82	85	87
20	140	88	91	94
21	147	95	98	101
22	154	101	104	107
23	161	107	110	113
24	168	113	116	119
25	175	118	122	125
26	182	124	127	131
27	189	129	133	137
28	196	134	139	142
29	203	139	143	147
30	210	143	149	152
31	217	148	152	157
32	224	152	156	161
33	231	156	160	165
34	238	159	164	169
35	245	163	168	173
36	252	166	171	176

表4 育成期のTN70候補豚の推奨増体曲線  
(TN70飼養管理マニュアルより抜粋)

## 国際養鶏養豚総合展2024出展

4月24日～26日の3日間、ポートメッセなごやで行われた国際養鶏養豚総合展2024（IPPS2024）に豚事協も出展いたしました。会場の中央部でブースを展開し、メンデルジャパン(株)と隣り合わせ、向かいには日の出物産(株)という位置関係で、一体感のある活動ができました。多くの組合員や賛助会員を始め養豚関係者や行政関係者など、幅広くご来場いただきました。誠にありがとうございました。会場内は盛況で、来場者計2万3298人と多くの方々が来場しました（前回2022年は約2万2700人）。通常は3年に1度の開催ですが今回は新型コロナ禍で1年延期していたため、今回は2年ぶりの開催となりました（次回は2027年）。

ポートメッセなごや新設の第1展示館をメイン会場に施設・機械・資材関係、フードコーナーなど216社・団体が出展（今回は229社・団体）。同館と、連結するコンベンションセンターでは80題以上の特別講演会や企業プレゼンテーションなどが実施されま

した。また養鶏・養豚関係者が直面する課題解決や、より良い業界の構築に向けて、①スマート畜産ゾーン②衛生対策ゾーン③SDGsゾーンの各コーナーが設置され、いずれのコーナーも盛況でした。

初日の開会式は中島功雄実行委員長（㈱中嶋製作所社長）森山裕中央畜産会会長（自民党総務会長、元農相）、大村秀章愛知県知事らも出席して、多くの関係者が見守るなかテープカットで開始されました。

会場に出展する賛助会員28社と連携し、それぞれの商材の紹介や豚事協の来場する組合員への呼びかけを強化いたしました。また新規商品の養豚場専用洗濯洗剤「ゆめウォッシュ」のサンプル配布を、製造販売する㈱アセラの協力のもと、実施いたしました。

松村理事長、山本副理事長を始め事務局一同、前日準備から開催3日間総出で出展させていただきました。その結果、新規入会の組合員や賛助会員が増えることとなりました。出展に際しては皆様のご協力とご来場に改めて感謝いたします。



## IPPSレポート 養豚DX 最新技術紹介

IPPS2024では多くの養豚に関わるデジタル化技術（DX）が紹介されました。このページでは当組合賛助会員が紹介していた技術やサービスをご案内いたします。今国会でも食料・農業・農村基本法が改正され、「第二章 基本的施策、第三節 農業の持続的な発展に関わる施策、第三十条」において「国は、農業の生産性の向上に資するため、情報通信技術その他の先端的な技術を活用した生産、加工又は流通の方式の導入の促進、省力化又は多収化等に資する新品種の育成及び導入の促進その他必要な施策を講ずるものとする。」と明記され、ますます養豚DXの技術開発や導入補助への動きが活発化するものと考えられます。養豚DXの現状について、各社の情報をぜひともご覧くださいませ。

### 飼料タンク残量管理ソリューション 「Milfee」のご紹介

株式会社 YE DIGITAL

当社は、2022年7月から飼料タンク内の残量を可視化する「飼料タンク残量管理ソリューション Milfee」を畜産関係者に提供をしております。「Milfee」は、飼料タンクの蓋の内側にセンサー端末を設置するだけで残量を計測し、クラウドに情報を送信。PCやスマートフォンで遠隔で飼料残量を確認することで畜産をスマート化します。

Milfeeの特長を3つご紹介。

- ①タンクサイズ、飼料形状問わず計測が可能
- ②工事不要、かんたん取り付け（利用者自身で簡単に取り付けが可能）
- ③外部システムとのデータ連携が可能

#### Milfee導入後のメリット

- ・タンク内の残量確認作業が不要になり、飼料管理の負担が軽減されることで、生育管理に専念できる
- ・生育に必要な飼料の枯渇を防止できる
- ・飼料管理の属人化から脱却できる
- ・日々の消費量の把握ができる
- ・Eco-Pork社の養豚経営支援システム「Porker」が導入されている場合、細やかな豚の健康状態把握ができる

※APIによるデータ連携によりPorker上でMilfeeのデータ活用が可能です。  
など

#### ▼導入実績▼

22年7月の導入開始から、  
656農場に展開（24年10月4時点）

- 牛：456農場
- 豚：77農場
- ★ 鶏：123農場



▼クラウド画面（タンク一覧）※PC用画面、スマートフォン用画面▼

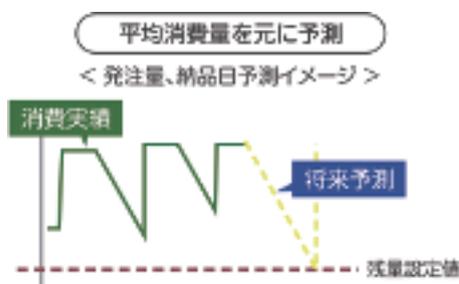


※携帯電話回線が繋がりにくいエリアでも、Milfeeをご利用いただけます。

# 2024年3月より提供開始 飼料発注業務の効率化支援システム Milfeeオーダーのご紹介

続いて、今年3月より提供を開始した「Milfeeオーダー」についてご紹介いたします。

「Milfeeオーダー」は、Milfeeの飼料残量データを活用して飼料の平均消費量を算出し、残量設定値になるまでの日数を予測。その予測結果から「いつ」「どのタンクで」「どのくらいの量」の飼料を補充したらよいかをお知らせします。



下記のようなお悩みを「Milfeeオーダー」で解決いたします。

「適切な飼料発注のタイミングや量が分からない」

「直前発注や飼料タンクに入りきれない量を頼んでしまう」

「発注業務に時間がかかる」

## ご提供機能

### ●納品日・発注量を自動でお知らせ

残量設定値になるまでの日数から、納品日を予測し、推奨の納品日・発注量を自動でお知らせ。直前発注や発注過多を抑制できます。なお、残量設定値は任意に設定できます。



### ●発注書作成を支援

納品希望日ごとにタンクNo、飼料名、発注量をまとめて表示し、発注書兼納品指示書の作成を支援します。



※既に、飼料タンク残量管理ソリューション「Milfee」をご契約のお客様は、「Milfeeオーダー」を追加契約いただくことでご利用いただけます。

YEデジタル 問い合わせ先

アドレス：milfee@ye-digital.com

電話番号：(03) 6452-5807

# 養豚を持続可能にするEco-PorkのDX技術 ～進化する見える化、自動化、省力化～

株式会社Eco-Pork

私たちEco-Porkは「食肉文化を次世代につなぐ」を経営理念とし、データを用いた生産管理を行うソリューションを提供しています。2018年、データの入力や分析を省力化・自動化し、生産性の向上を実現する養豚経営支援システム「Porker」の販売を開始。以降、肥育豚の体重を一括推計可能な「AI豚カメラ」、豚舎設備や機器を遠隔で監視・制御する「豚舎環境コントローラー」など、技術力の進歩とともにラインナップを増やしてきました。

畜産業界の人手不足、環境負荷の軽減に対応するためには、人が担っている作業の自動化に加え、カメラやセンサーを連動させた生産管理の自動化・高度化が不可欠。弊社の最新技術と、スマート畜産技術の開発を牽引する鹿児島大学などと協働で取り組んでいる研究開発中の製品をご紹介します。

## ここまで来た！養豚経営支援システム「Porker」

Porkerは繁殖から肥育、出荷までの全ステージの記録が連動し、グラフや表で見える化。農場の条件に合わせた分析機能の活用で、現場と管理者が共通の視点で議論でき、改善計画の立案に貢献してきましたが、昨年11月、ユーザーの声を反映した大型アップデートを行いました。

### 1 カスタムダッシュボード (写真①)

Porkerに記録したデータをグラフや表で可視化。担当業務に合わせて見たいデータを選び、表示位置やサイズを自由に設定できるため見たいデータをいつでもお手軽に確認いただけるようになりました。

### 2 英語、ベトナム語対応 (写真②)

現場で活躍する外国人従業員の作業効率をUP。日本語と同じ画面なので、説明や情報共有も容易です。

## ここまでできている！豚の体重が見えるメガネ「スマートグラス」(写真③)

現在主流となっている豚衝機による体重測定は重労働かつ危険なうえ、豚にも相当なストレスがかかります。弊社は、自然な飼育状態のまま、豚の体重と健康状態を非接触で同時測定し、スマホなどに通知するためのセンシング技術とデバイスを研究開発しています。研究にご協力いただいた生産者様からは、省力化・作業性改善に期待がもてるとの評価をいただきました。上物率の向上による売上アップ、健康異常の早期発見による死亡事故の抑制に貢献できる製品の実用化に向け、改良を重ねてまいります。

## ここまでできている！豚の快適度をもとに最適な豚舎環境を自動制御するシステム (写真④)

既存製品の「AI豚カメラ」と「豚舎環境コントローラー」を通じて培った技術を高度化させ、非接触のモニタリング技術を用いた環境管理システムの構築にも取り組んでいます。子豚の健康状態・活動量などの生体情報を活用し、ファン・ヒーター等の各種機器を最適制御。飼料要求率や事故率の改善、豚舎の見回り等にかかる作業時間の削減を実現します。

私たちは、生産者様や業界全体の課題の改善につながるDX技術の開発を目指しています。これからも、養豚の持続可能化に貢献する製品・サービスの提供に努めてまいります。

(株) Eco-Pork

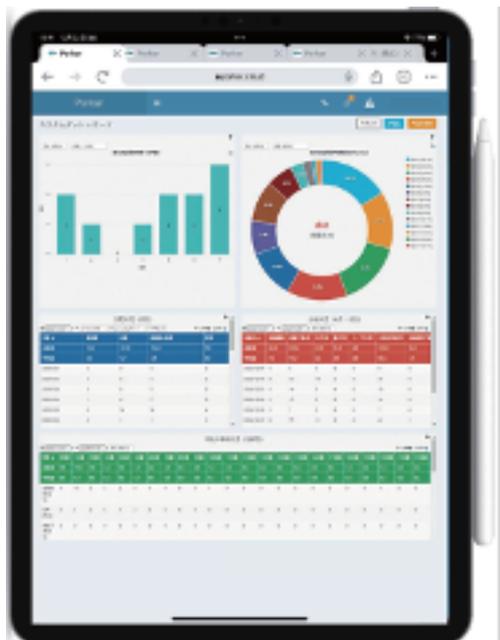
<https://eco-pork.com>



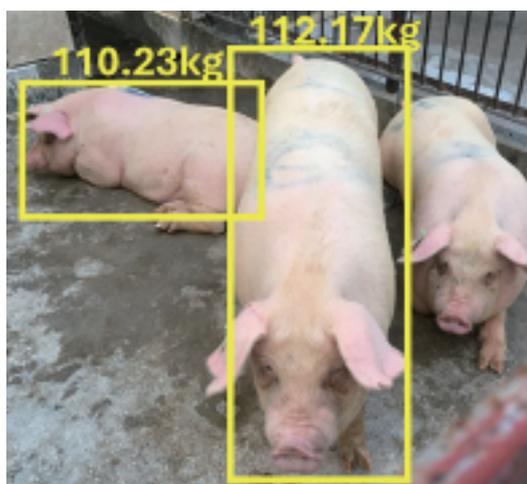
お問合せ 受付時間平日10時 - 12時 / 13時 - 18時  
080-9945-1129

[info@eco-pork.com](mailto:info@eco-pork.com)





写真① 業務効率を向上させるカスタムダッシュボード



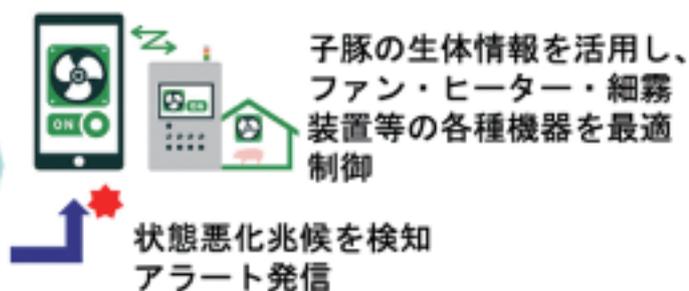
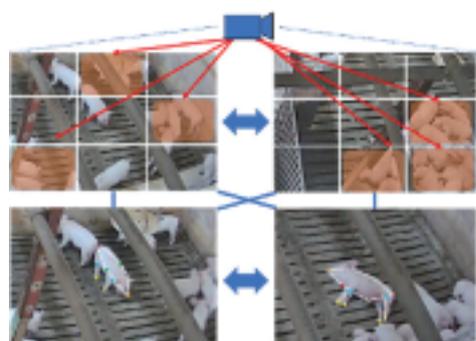
写真③-1 体重推計の画面イメージ



写真② 待望の多言語対応 ベトナム語表示のダッシュボード



写真③-2 スマートグラス（上）と装着イメージ（下）



写真④ カメラによって豚の生体情報をセンシング。快適度をもとに環境をコントロール

# ナカマチックインテリジェント フィーディングシステム

株式会社中嶋製作所

## 1. ナカマチックスマート畜産

当社では、ロードセルなどを使用した各種飼料タンク計測システム、畜舎の温度管理などを行う畜舎環境コントローラーKDシリーズ、温度、湿度、二酸化炭素濃度などの環境情報を収集する畜舎監視システムなどをラインナップしています。そして、スマートフォン、タブレットなどを使用してそれらのデータにどこからでもアクセスできるNKクラウドを提供しています。また、飼料搬送、自動給餌についてもタッチパネルなどを使用し、お客様に合わせたフルオートの給餌システムの構築もしています。

## 2. ナカマチックインテリジェントフィーディングシステム

ここでは、分娩舎でのナカマチックインテリジェントフィーディングシステムを紹介します。養豚経営において、飼料コストは生産原価の中で最大のコストを占める部分です。最近の飼料高騰により、効率的な飼料給与の要求はますます高まっています。その飼料を母豚に無駄なく、効率的に給与するために開発されたシステムです。本システムはコントロールフィーダー MK40-01型と中央制御盤、PCなどにより構成されます。(図1) 本システムでは母豚の状態に合わせた給餌量を、分娩日からの経過日数により自動的に演算します。それを1日何回かに分け、さらに1回給餌量を、少量ずつに分けて給与するシステムです。(図2) 母豚の採食スピードに合わせた飼料の給与が可能ですので、餌こぼし、餌残しを最小限にすることが可能です。

また、農場内にWi-Fi環境を整備することによって、どこからでもスマートフォンやタブレットを使って監視操作が可能になります。また、インターネット経由でVPN接続を確立することによって、自宅や旅行先などでも農場内と同じような管理ができます。(図3)

本システムの導入により、餌こぼし、むだ餌が削減され、飼料効率の向上が図られます。自動的に適量の餌を給与しますので、農場管理者の作業を減らし、給餌以外の作業に時間を振り分けることが可能になります。さらに、VPN接続により、リモートワークでの監視操作が可能になります。育児、介護などで在宅勤務が必要な場合、旅行などに行きたい場合にも給餌の操作確認が簡単に行えます。さらに、監視カメラを組み合わせることで、より安心してリモートワークをしていただくことが可能になります。今日は子供の学校が休みでリモートワークという時でも、カメラで母豚の様子を見ながら、給餌操作、食事の状態を確認できます。このように、農場の働き方改革に貢献できるとシステムではないでしょうか。

## 3. 今後の展望

今回紹介したナカマチックインテリジェントフィーディングシステムだけではなく、飼料タンク計測システム、畜舎環境コントローラー、畜舎監視システム、監視カメラ、NKクラウドなどを導入していただくことにより、畜舎の総合的な管理が可能になります。

また、すべて自動化された畜舎では、機械の故障時には、給餌ができない、換気ができないなどの重大な問題が発生します。そのような事態が発生しないような、メンテナンス情報の提供など農場管理者の安心を届けられるようなシステム開発を進めています。

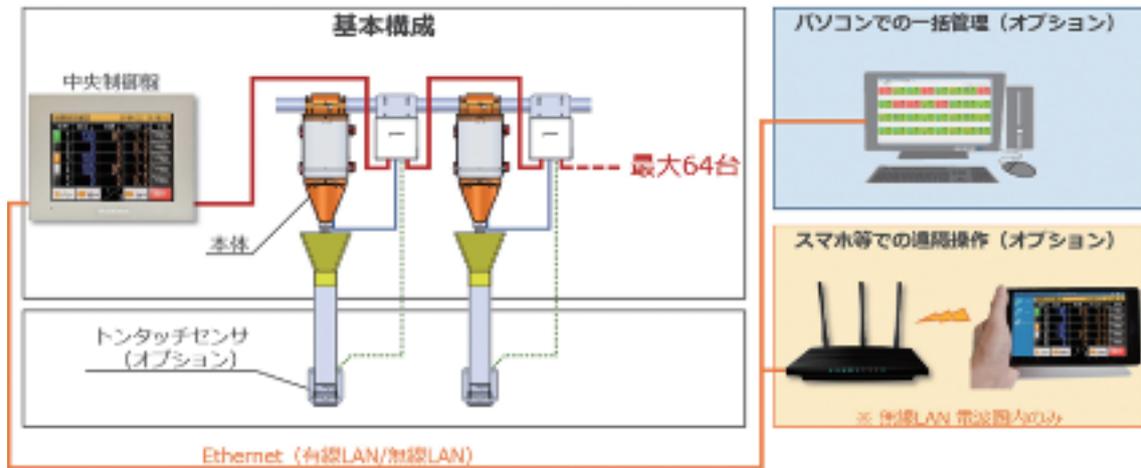


図1

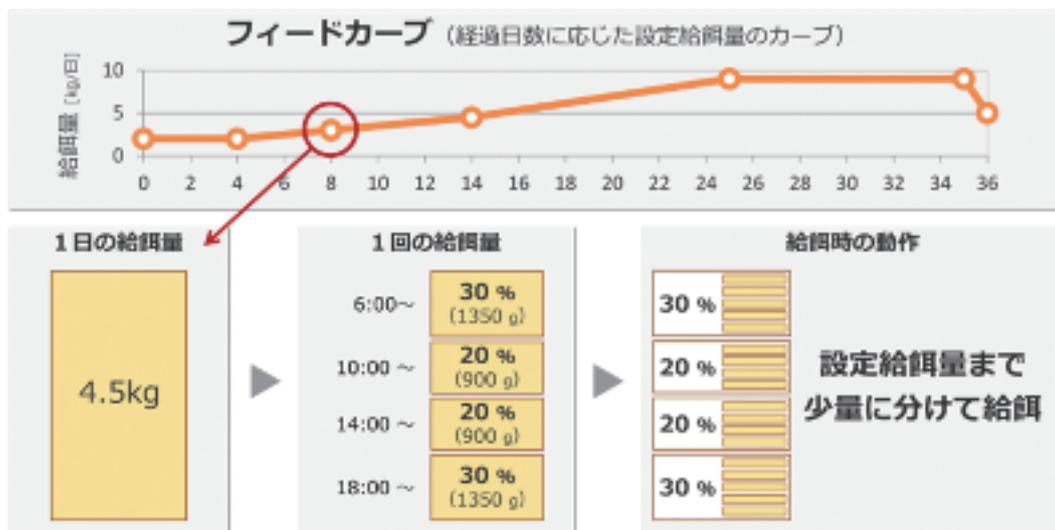


図2

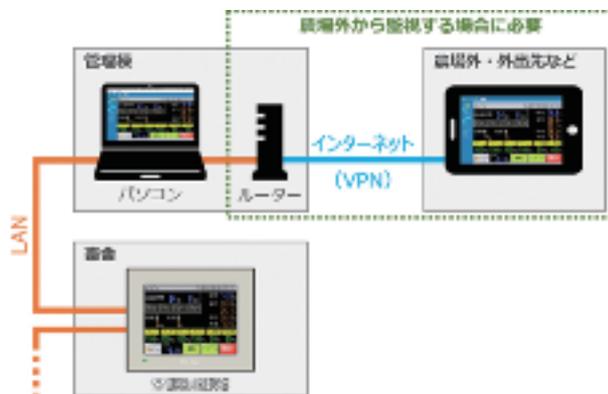


図3

# デジタル技術・AIを活用した、豚舎内飼養豚咳音検知および豚舎内温湿度モニタリングシステム 「SoundTalks®」

ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン株式会社  
ライブストック事業部 久徳 史明

## 1. SoundTalks®について

### ・システムの構成について

SoundTalks®のシステムは咳の頻度を集音すると同時に温湿度を計測するモニターと、モニターとインターネット上のクラウドの中継ポイントとなるゲートウェイがハードウェア部分を構成し、スマートフォンアプリ「SoundTalks」ならびにウェブサイト(<https://www.soundtalksweb.com/app/sites>)がソフトウェア部分を構成します(図1)。

### ・ハードウェアの形状と設置条件について

モニターならびにゲートウェイの形状は図2、図3の通りとなっております。設置条件としてモニターの底面から豚が飼養されている豚房の床面まで最低2mから最高5mの高さを確保する必要があり、この条件での設置が可能であれば、モニター直下の地点から半径10m以内の音を収集できます。

### ・咳音検知のメカニズムについて

豚舎に吊り下げられたモニターが豚舎内から発せられる音を24時間365日収集し、収集された様々な音のデータはゲートウェイからインターネット回線を介してクラウド上にアップロードされます。様々な音のデータはクラウド上でSoundTalks®独自のAIにより豚の咳音のみを選別し、アルゴリズムにより速やかに分析され、結果は豚舎内に吊り下げられているモニターのLEDやアカウント登録済みユーザーのパーソナルコンピュータ(PC)のウェブサイトやスマートフォンのアプリ上に表示されます(図4)。

### ・緑色、黄色、赤色の表示による咳の頻度の解釈について

モニターが集音を開始してから約2日間で、その豚舎における咳の頻度のベースラインをシステムが設定します。咳の頻度が少ない場合には、モニター

のLEDならびにPCやスマートフォンの画面上には緑色が表示され、咳の頻度がシステムに定められた閾値をある程度超えた際には黄色、閾値をはるかに超えた際には赤色の表示となります。また、スマートフォンのアプリにはプッシュ通知システムが搭載されていて、咳の頻度の急激な増加もしくは温湿度の急激な変化があった際には即時的な通知が可能です。咳の頻度のレベルを緑・黄・赤の3色で示すというユニークなアイデアはすでにSoundTalks®を利用して国内外ユーザーから交通信号の様でわかりやすいと好評をいただいています。

## 2. SoundTalks®を導入した際に想定される養豚生産者のメリット

- ・豚の咳の頻度をタイムリーに把握：24時間365日、システムユーザーが豚舎のみならず豚舎外または農場外にいても豚の咳の頻度を把握できます。また、豚の咳の観察のために豚舎に出入りすることが少なくなり、観察に要する時間を短縮することが期待されます。
- ・バイオセキュリティの向上：咳の観察を目的とする豚舎への出入りを極力減らすことでバイオセキュリティの向上が期待できます。
- ・豚舎環境の適正管理：豚舎の温度・湿度をリアルタイムにモニタリングすることで、飼養環境の変化について適時に把握し、対応に役立てることができます。
- ・管理獣医師との早期連携：豚の咳の頻度や飼養環境に変化が生じた場合に対象となる豚群を特定し、管理獣医師への早期連絡・相談が可能となります。
- ・作業の効率化：農場の情報を即時的に複数人でかつ遠隔でも共有可能となることで、作業の省力化

を図ることができます。また、ウェブサイトやスマートフォンアプリには写真等の添付機能を搭載したチャット機能も付随しているので、農場に紐づけられたユーザー間のコミュニケーション向上が期待できます。

※SoundTalks®は飼育豚の咳音の状況を絶え間なくモニタリングするものであり、遠隔診断用の動物

用医療機器ではありません。

問い合わせ先：

ベーリンガーインゲルハイム アニマルヘルス ジャパン(株)

ライブストック事業部 スワイン部

ahsoundtalks.jp@boehringer-ingelheim.com



図1 咳の状況に応じて3色に変化するモニター



図2 モニターの豚舎内設置イメージ



図3 ゲートウェイの豚舎内設置イメージ

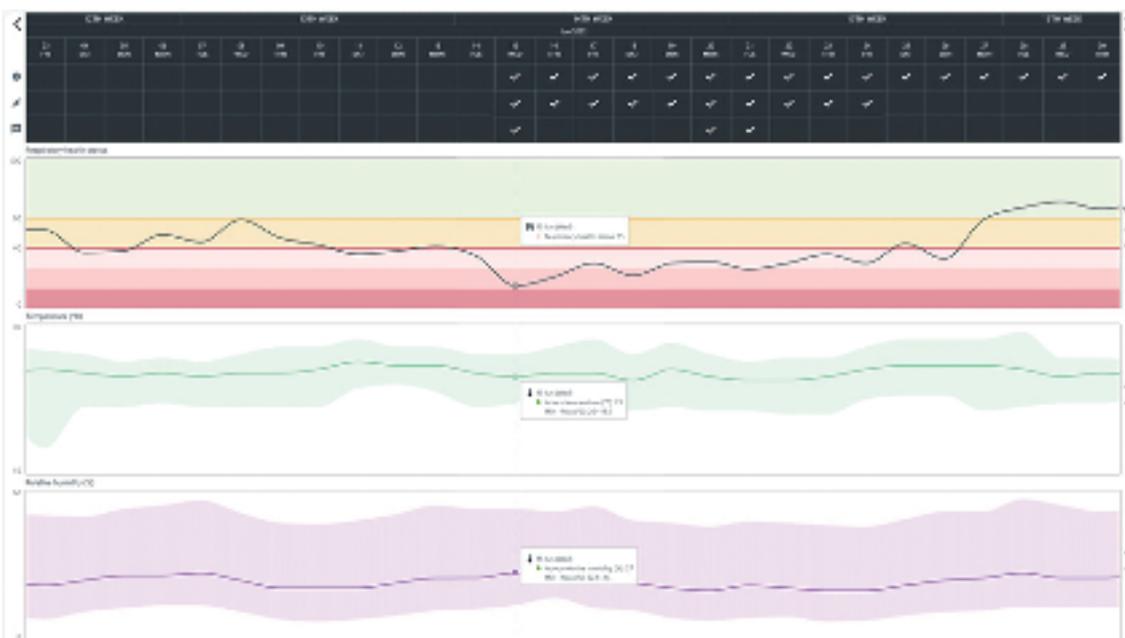


図4 SoundTalksウェブ画面イメージ

## 第25期 支部セミナー開催概要

第25期支部セミナーの開催が決定されました。先日ゆめ通信133号でお伝えした「病気と闘わない養豚にむけて～大分・福田農園の先進事例に学ぶ～」でも紹介いたしましたように、今期25期の支部セミナーは上記をテーマに進めていく予定です。つきましてはまず7月26日に豚事協年次総会の記念講演にて実際に福田実氏（有限会社福田農園、代表取締役）にご講演いただきまして、それを皮切りに全国支部セミナーでもご紹介させていただきます。日程や詳細なテーマに関しては下記表をご覧ください。まだ検討中の部分もございますので変更となる可能性があります。今期の支部セミナーも奮ってご参加ください。

支部	場所	日時	内容（予定、変更の可能性あり）
九州	都城	令和6年9月27日（金）	ハイヘルスな養豚で継続できる経営を学ぶ 講演：(有)ヴィクトリーポーク中岡氏
北海道	札幌	令和6年10月18日（金）	熊本興畜(株)による熊本方式の運営と今後の規模拡大について
東北	盛岡	令和6年11月22日（金）	病気と闘わない養豚経営をJASVベンチマーキング成績上位者から学ぶ
中部	名古屋	令和6年12月6日（金）	TopigsNorsvinのTN70についての研究会
関東	高崎	令和7年1月17日（金）	病気と闘わない養豚経営
中四国	松山	令和7年2月14日（金）	病気と闘わない養豚経営から学ぶ
沖縄	那覇	令和7年2月28日（金）	JASVベンチマーキングを活用する事例紹介

## 第24期中四国支部セミナー

第24期中四国支部セミナーは3月22日（金）愛媛県松山市、ホテルトップイン松山にて開催されました。参加者は44名となり多くの方にご参加いただきました。

24期支部セミナーのメインテーマである「JASVベンチマーキングの活用」について、有限会社日野ミートファーム代表取締役日野光総氏よりご講演頂きました。

### ○農場情報

- ・ 広島県庄原市
- ・ 母豚95頭
- ・ 品種：ピクア（GP導入）、デュロック（購入精液：(株)メンデルジャパン）
- ・ 飼料：配合飼料

### 農場は雪深い広島県庄原市

農場は広島県庄原市の山間地で、冬場はかなり積雪する地域である。従業員は家族4名、母豚95頭で一貫経営をしている。母豚はピクアをGP導入して自家育成している。多産系のピークの成績までは到達していないものの、子豚の発育や揃いが良好で、肉質や規格改定による上物83kg上限にも対応ができています。5社共同で牡蠣殻を肥育飼料に添加することで「瀬戸もみじ」というブランドで商標登録をしている。

株式会社ホグベットクリエイションの大久保先生が広島で新たに開業されたことを知り、2020年9月より農場コンサルティング契約を結び、JASVベンチマーキングにも参加している。ベンチマーキングに関しては父親の代から関心があり、かつては養豚管理ソフト「とん太郎」を使用し、現在も全農WebPICSを

活用して、数値にこだわる生産管理は徹底してきている。とくに「エサー粒一円」という合言葉の元、FCRは徹底して管理しているので、現在もJASVベンチマーキングは上位を維持しており2023年では8位の4.05であった（農場枝肉FCR）。JASVベンチマーキングでは自農場の日本国内の立ち位置がわかるため強み、弱みを理解して改善すべきポイントが明確にできる点がよかったと感じている。



広島県庄原市口和町竹地谷1190

図① (有)日野ミートファーム農場

### 契約後3年間の取組と成績の変化

特に大きく改善したのは分娩率で2020年C評価（89%）だったものがA評価（94%）となった。夏場、母豚の子宮内膜炎や流産などがあり悩みの種だったが、深部注入によるAIへの変更や陰部洗浄を徹底することにより激減した。またドップラー式の妊娠鑑定機から超音波画像診断装置に変更し、受胎管理の精度が改善したことも要因としてあげられる。品種がピクアに切り替わってきたことで離乳頭数や出荷頭数が少しずつ増え、また一頭あたりの出荷重量も増やすことで、1母豚あたりの出荷枝肉重量は3年間で130kg増加し、2000kgを超え2023年では2060kgと改善された。

また、ワクチンプログラムの見直しを行い、マイコプラズマワクチンを14日齢1回接種から、3日齢

給餌器のコントロール



- 五社子種用、石は既製用ウェット給餌器、配給される仕上済餌を餌の筒に投入するために朝夕の2回、給餌器や給水用のチェック。 ■ FCRの改善に寄与
- ウェットタイプ社と餌のパラメータに注意。（ベンゴとにクセや量がある）

図② 日野ミートファームの給餌器管理

と離乳移動時の21日齢の2回接種に変更したことで、増体重や出荷日齢の改善につながった。3年間で出荷体重が平均で2kg増えた状況でも出荷日数は約8日間短縮し、1日増体重も46.4g増えている。衛生管理の基本としてAI/AOが重要ということで、大久保先生からは4-5システムを推奨されたが、現状の設備の問題で2-10システムを採用した。

大久保先生の指導をいただくまでは体測していなかった出生時体重は、平均1.0kg以上だと思い込んでいたが、実際にデジタルの計量で計測をしたら平均0.8kgしかなく、正確なデータ取りが大切なことがよくわかった。

### ベンチマーキング結果から得た課題

D判定となったワクチン・抗菌剤費は現在レンサ球菌、スス病が発生しており、対処にかかる費用がかさんでいる。一方でその要因が冬場の換気不良であることがわかり、対策を講じて衛生費削減へ動き出すことができた。またベンチマーキングの結果でも成果がでてきている繁殖成績向上や出荷豚の品質の均質化をすすめるためにも、種豚をできるだけ早くそろえていくため、ピクアのGP導入による自家育成を始めた。

### まとめ まずやれることから！

JASVベンチマーキングを利用する事で自農場の立ち位置を客観的に把握することができ、成績が伸び悩む農場ほど伸びしろがあり、弱点の部分に適切に対策をうてば費用対効果が大きいことがわかった。最新の知識や技術をもった養豚専門獣医師のコンサルティングを受ければ、衛生面だけでなくコスト面まで考慮した養豚経営全体の指導をしてもらえるため、経済的メリットは非常に大きい。しかし、どんなによいことも実際に取り組むのは農場にいる自分たち。まずは基本的なことをひとつひとつできることから、なるべく早く取り組んでいくことが大切であると改めて実感している、と強調されました。

続いての講演は、株式会社 hogベットクリエイション代表取締役大久保光晴獣医師より「日野ミートファームののコンサルティングとJASVベンチマーキ

ングについて」と題してご講演頂きました。

JASVベンチマーキングの特長や参加方法の説明がなされました。

最後に賛助会員によるプレゼンテーションの時間が設けられ9社が最新情報を提供しました。(株メン

デルジャパン、(株)YE DIGITAL、(株)Eco-Pork、明正工業(株)、江南コンクリート(株)、富士フィルムVETシステムズ(株)、(株)アスコ、(株)中嶋製作所、丸紅セーフネット(株)

閉会後は同会場で懇親会が行われました。(加藤)



図③ 日野ミートファーム生産性ツリー 2020年



図④ 日野ミートファーム生産性ツリー 2023年

# 「矢原の部屋」 Vol. 5

専務理事 矢原 芳博

みなさんこんにちは、皆様のお悩み相談窓口「矢原の部屋」でございます。矢原の部屋も徐々に浸透しつつあるようで、豚事協メンバーとお会いすると、「あー、あの矢原の部屋の！」という反応も増えており、うれしい限りです。さて、今回は6月に総勢14名で実施した豚事協米国視察研修についてご報告いたします。

## 豚事協海外視察研修2024 アメリカツアー

豚事協では、昨年に引き続き今年も、6月4～10日の7日間、アメリカ合衆国アイオワ州デモインで開催されたワールドポークエキスポと農場見学を組み合わせて視察研修を実施しました。参加者は12名で（お名前は表1のとおり）、通訳と現地でのコーディネーターは、(株)スワインエクステンション&コンサルティングの大竹聡先生にお願いし、事務局からは矢原が参加させていただきました。

## やっぱりけた外れのワールドポークエキスポ！

大竹先生とはデモインの空港で待ち合わせだったので、つたない矢原の引率で何とかデモインに到着

し、翌日からはワールドポークエキスポをじっくりと堪能しました。日本でも今年4月に名古屋で国際養鶏養豚総合展（IPPS）2024が開催され、2万人以上の来場者でにぎわっていましたが、養豚単独で、更にその何倍も規模の大きいエキスポに、参加者全員最初は驚きを隠せませんでした。

その迫力に圧倒されながらも、参加者の皆さんは大竹先生の通訳を頼ったり、自力で汗をかきながら出展者と直接のやり取りにチャレンジし、2日間たっぷり最新の米国の養豚機材について勉強しました。

## 今年のポークエキスポの特徴は？

広大な敷地に世界からの出展者が展示をしていましたが、昨年の研修参加者からの情報と比較して、今年の展示の傾向とえば、まずはIT関連の機器（AIカメラやそれらの情報を統合して情報処理するシステムなど）の展示が多かったこと、次に、アニマルウェルフェア関連の資材が意外と多くなかったこと、でしょうか。今年1月に正式に施行されたカルフォルニア州提案12号において、妊娠母豚のストール飼育が禁止され、母豚1頭当たりの飼育スペースも2.2m<sup>2</sup>以上を確保するなどの規制が始まり、実際に農場で適応される中、母豚の事故率の増加や生産コストの増加、豚肉価格の上昇など、ネガティブな側面が露呈してきて、養豚業界では幾分トーンダウンしているように感じられました（個人的な感想です）。

## 今年も農場視察を敢行できました！

豚事協の海外研修の目玉企画である農場視察は、イリノイ州のカーテージベテリナリーサービス（CVS）のご協力をいただき、今年も繁殖農場と肥育農場の両方を視察させていただきました。紙面スペースの都合上、農場視察の報告は次号の矢原の部屋でご紹介したいと思います。極限まで効率にこだわった米国の養豚生産現場に触れた我々は、今後の日本の養豚生産のあるべき姿を考えさせられる機会となりました。次号乞うご期待！

表1 海外研修参加者

所属	氏名
有限会社柴畜産	柴 香代子
有限会社角田農場	角田 栄作
有限会社キープクリーン	田中 尚樹
下仁田ミート株式会社	高橋 義一
下仁田ミート株式会社	吉澤 遼太
株式会社アーク	池田 修平
ファロスファーム株式会社	片濱 裕太
ファロスファーム株式会社	井原 亨
有限会社ブライトピック千葉	小野田 翔悟
株式会社いわて清流ファーム	藤田 祥平
株式会社林牧場	小原 良介
株式会社ロッセ農場	掛野 皓太
日本養豚事業協同組合	矢原 芳博
(株)スワイン・エクステンション&コンサルティング	大竹 聡

## ●●● 第24回 通常総会 開催のお知らせ ●●●

第24回通常総会を下記要領にて開催いたします。また記念講演として「病気と闘わない養豚経営にむけて」と題して、福田実氏（有限会社福田農園代表取締役）にご講演をいただく予定となっております。

講演の内容としては、大分県中津市にある有限会社福田農園が新農場を建設する際に、生産を中断することなく、既存農場を完全にオールアウト（5か月間）して病原体がなくなったことを確認したのち、新農場のハイヘルス環境で生育された母豚を導入し、そこから産み出される肉豚を育てることで、一時事故率が25%まで達した農場が5～6%まで低下したという実例となります。母豚はTopigs Norsvinを採用しており、高能力種豚の能力が十分に発揮できる環境となりました。病気と闘って治療や対処に奔走するところから、抜本的に農場から病原体を抜き取りハイヘルスな環境で養豚経営を実施する「病気と闘わない養豚経営」へ、皆様が続けられる養豚経営のヒントとなると思います、このテーマをとりあげました。また豚事協としてはこのテーマを前述の支部セミナーとあわせて、一年をかけてお伝えしていく予定です。またとない貴重な機会になると思いますので、ぜひとも皆様お誘いあわせのうえ総会へ奮ってご参加いただき、会場で直接講演をお聞きいただきますようお願い申し上げます。

詳細は前号133号で紹介しております記事をご参照ください。

総会の正式なご案内は総会資料と共に後日お手元にお送りいたします。



有限会社福田農園ご紹介動画

<https://www.marui-dam.jp/gl/q9tojeinpx/>

記

開催日時：令和6年7月26日（金）午後1時30分～

開催場所：大手町サンケイプラザ

東京都千代田区大手町1-7-2 TEL03-3273-2230  
丸の内線・半蔵門線・千代田線・東西線・都営三田線  
「大手町駅」A4・E1出口直結  
JR「東京駅 丸の内」北口より徒歩7分

- 議案：◆第24期事業報告、決算（案）の承認  
◆第25期事業計画案の承認  
◆経費の賦課徴収方法の決定

なお、総会終了後、記念講演会及び懇親会を行います。

以上

アクセス



### 編集後記

\*\*\*

「紫陽花や 帷子時（かたびらどき）の 薄  
浅黄（うすあさぎ）」 松尾芭蕉  
梅雨の季節がやってきました。といっても北海道の方には縁がありません。芭蕉が詠んだ一句から始めましたが、春から夏へ、帷子という涼しげな麻の夏服に衣替える時期であることは昔も今も変わりません。その帷子の色が薄浅黄色という淡い水色で、季節に映くアジサイの色と同じであると歌ったものです。日本人が季節の移り変わりを大切に、丁寧に切り取って表現していた、しみじみと趣深い一句です。実は梅雨時にお馴染みのアジサイは江戸時代当時今ほど人気な花ではなかったようです。江戸時代にシーボルトが長崎からアジサイをヨーロッパに持ち帰り紹介したことから西洋で流行し、品種改良がなされていったものが、大正時代ごろから日本に逆輸入されはじめたそうです。実は第二次世界大戦後になって、逆輸入された西洋アジサイが今のようになり人気になっていったようです。人気を決定付けたのは昭和59年に発表された「ミセクニコ」というピンク色で真ん丸に花弁（厳密にはガク片）がまとまるかわいらしい品種です。そこから流行したものはさわやかな水色で動きのある「墨田の花火」や「ダンスパーティー」など色も形も変化しております。今では5月の母の日のプレゼントとして、カーネーションよりもアジサイが人気になっており品種も多種多様でこの時期の花として大きなブームを巻き起こしているほどです。一見していただきたい世界の最新種ショーで話題となった「ラグランジア プライダルシャワー」はアジサイの常識を覆す姿、色合いで進化は止まりません。日本全国で暑い夏だった2023年、涼しげなアジサイを眺めながら今年は猛暑が少しでも落ち着いてくれることを祈るばかりです。養豚の現場も皆様自身も夏の暑さ対策、しっかり講じてくださいませ。（加）